

世界基準の英語テスト TOEFL Primary® 導入の利点とは

大阪・近畿大学附属中学校

2021年度からいよいよ、中学校で新学習指導要領が全面实施となる。外国語科においては教室をコミュニケーションの場と捉え、生徒の4技能をバランスよく伸ばす授業への転換が求められている。近畿大学附属中学校では建学の精神である「実学教育」を実現するため、国際的な英語運用能力テスト「TOEFL Primary®」を全校で導入した。生徒の学習意欲を高めるだけでなく、小中高大の連携や大学入試も見据えた、自ら学びを進められる生徒の育成に役立っている。

実学教育の精神が
息づく伝統校



齊藤香織教諭
まな教材を捉
供してきたこ
とや、TOEFL
Primary®を繰
り返し経験して

「実学教育」と「人格の陶冶」を建学の精神とする近畿大学学園。附属高等学校・中学校は昭和14年以降の歴史を持ち、社会の変化に応じて生徒たちに最も必要な教育を求めて変革を続けてきた。教育理念である「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人になろう」を校訓に掲げた全人教育を実践している。

英語教育においても、実学教育の視点から「社会に役立つ人材」にふさわしい資質・能力の育成に力を注ぐ。英語科教員は、4技能をアクティブラーニングの要素を取り入れながら教える外部研修を受けており、中学校学習指導要領の全面实施に向け「英語で教える」授業への準備も着実に進めてきた。

全学年・全員受験で成績にも反映
2016年よりTOEFL Primary®を中学校で導入し、現在、2・3年生は年2回、1年生は年1回受験する。導入の理由は「テストの内容や題材が、生徒に身近なものや日常会話、興味を持ちそうな話題で構成されていたこと。授業で教えることとテストで試すことが近い点に魅力を感じた」と、中学英語科主任の齋藤香織教諭は振り返る。

次の学習への動機付けに 教師の授業改善にも

アを評点に換算し、成績評価にも組み込む。定期試験だけでなく、外部試験を活用して客観的に生徒の英語運用能力を評価しようとする学校の姿勢は、保護者にも好評だといっている。

伸びを実感し
目標が立てやす
TOEFL Primary®のスコアレポートには、その生徒が、リーディングとリスニングについて「何ができるか」が具体的に書かれており、次に「どう学ぶか」のアドバイスも添えられている。

「丁寧で具体的なアドバイスは、次に必要な学習への動機付けになる。特にリスニングは日々の授業で積み上げることが大事、という継続の意識が芽生えた」と、齋藤教諭は導入後の生徒の変化を感じている。

2020年度はコロナ禍による一斉休校で、同校も約2カ月のオンライン授業が続いた。そのような中でも、中学3年生は昨年度よりスコアを伸ばし、英語科教諭は振り返る。

「TOEFL Primary®を繰り返し経験してきたことで、英語学習に対する前向きな姿勢が育まれていることが、結果的にスコアアップにつながったのではないだろうか。」

実施前後の工夫で
自律的な学びへ
このようなポジティブな結果の背景には、授業以外にもさまざまな工夫があった。同校は医薬コース、英数コースアドバンスト、英数コースプロに実施できるよう、実施前は全教員の協力を得て準備を進めている。

テスト後のスコアレポートはコース別に結果や傾向をまとめ、英語科全体で共有。教員一人ひとりに情報を届け、生徒が「受けっぱなし」にならないようにしている。

スコアレポートに明示されるCEFRレベルは、教師が授業改善や個別支援の手がかりをつかむべくくつた。



授業の様子(コロナ禍以前に撮影)

英語学習における校種間連携の架け橋として

第1回 公開テスト日程

TOEFL Primary® Step 1・Step 2
TOEFL Junior® Standard

2021年6月20日(日)
申込期間:3月23日(火)~5月7日(金)

札幌・東京・横浜・名古屋・大阪・福岡で開催

※学校・団体受験も可能です。
テストの詳細は以下のサイトをご覧ください。

グローバル・コミュニケーション
& テスティング
公式HP=https://gc-t.jp/